

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年6月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105149
法人名	有限会社 パッション
事業所名	グループホームかすが
所在地	鹿児島市春日町8番25号 (電話) 099-248-1058
自己評価作成日	H26年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心身共に穏やかな生活を送って頂けるように、家族のように寄り添いながら、人としての尊厳と活力の向上を大切にしています。「出来ること」「出来ないこと」を見極めて、協働しながら過ごしています。入居者の皆様楽しみである、食事に力をいれています。旬な食材、栄養のバランス、好みの献立を考慮し提供しています。口腔体操、口腔ケアの介助に力を入れて、食事をより美味しく召し上がっていただけるように努めています。春日神社、若宮公園等近くに神社、公園等の地域資源も多数あり、地域の行事に参加したり、町内会に加入し、班長を務めるなど、地域との交流にも力をいれております。季節毎に行事を行い、ホーム内の設営も季節感のあるものを取り入れています。入居者様の健康管理にも気を配り、日常生活状況の把握(食事量、水分摂取量、排泄確認、バイタルチェック)を毎日行い、主治医と連携を図り、緊急時の対応がスムーズに行えるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは鹿児島市の閑静な住宅地に位置し、周辺には神社や公園・鹿児島の歴史と関係の深い史跡も多く、散歩や買い物の際には地域の方々と親しく挨拶や会話を交わすなど、利用者はふれあいを楽しんでいる。町内会に加入して地域の行事等には積極的に参加し、近隣の小学校や保育園との交流の機会も多い。
○管理者は日頃より職員が働きやすく話しやすい環境づくりに努力を重ねている。職員の意見や提案は、日々の申し送りや職員会議で積極的に聞き取り、特に利用者のケアに関しては十分に話し合っている。職員が意見を出しやすいように日頃から声かけを行い、個別面談でも丁寧に話を交わして運営や利用者へのサービス向上に具体的に活かすように取り組んでいる。
○職員の働く意欲の向上やレベルアップを図るための勉強会や研修も計画的に行われている。例えば、身体拘束廃止に関する勉強会では、ブレイン・ストーミング法も活用して職員の意見を収集、共通理解を深めケアへの反映を図っている。
○管理者および職員は、利用者の暮らしの楽しみをより充実させるため大きな関心を寄せている。ひとつは食事についてであり、日頃の会話から利用者の好みの把握に注意し、調理方法や盛り付け、おやつの手作り、季節の行事食や誕生会等の特別食、弁当持参の季節の花見等の外出など、多くの工夫を重ねている。また、日々のレクリエーションや計画的な行事立案に基づく外出支援もより充実したものとなるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者、家族の想いを尊重し、パーソン・センタードケアを方針とした理念を掲げ、毎朝唱和することと共に、実践できるように意識付けをしている。	ホーム独自の理念と方針に沿って、地域や家族とつながりながらその人らしい自由な暮らしの支援を目指して日々取り組んでいる。理念は玄関や事務室に掲示して朝礼で唱和し、その意義を意識して毎日のケアへの反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、散歩や買い物等の外出時に交流が持てるように心がけている。町内会で役員を引き受けている。	地域との交流は盛んであり、町内会に加入して班長も努め、清掃活動や行事などには積極的に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の方々と挨拶や会話を交わしている。また、保育園児や小学生との交流並びにボランティアの来訪の機会も多く、利用者はこれらのふれあいを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域での行事に参加したとき等、地域の方々に認知症の方への配慮をしていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヵ月に一回運営推進会議を開催し、家族や地域包括支援センター職員、近隣住民に参加して頂き、ホームでの活動報告、研修報告を中心に様々な話し合いを行い、意見を頂いている。	会議は家族や地域住民代表・地域包括支援センターや消防署の職員等の参加を得て定期的開催されている。利用者やホームの現況報告のほかに行事や課題等について活発な話し合いが行われ、必要に応じて職員会議でも検討を重ね、家族や地域との関わり及び業務改善や日々のサービス向上等に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	鹿児島市長寿支援課、介護保険課、指導監査課の方に指導を頂いている。	各種の手続きをはじめとして、市の担当者とは電話や訪問の際に、運営や利用者の状況について確認や相談を行い、適切に助言・対応して頂くなどの連携を図り、業務やサービスの改善に取り組んでいる。毎年介護相談員の受入れも行い、案内される集団指導研修を始めとした多くの研修等に参加して情報や意見の交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月、職員会議の際に身体拘束廃止委員会を開催し、日々のケア振り返りを行なっている。内部研修を通して職員一人ひとりが身体拘束について理解をしている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、言葉による行動制限を始めとする身体拘束や高齢者虐待に関する多くの勉強会を、ブレーン・ストーミング法も活用してホームで実施し、職員の共通理解を深めケアへの反映を図っている。職員の見守りのもと安全の確保に留意しながら、玄関や居室に鍵をかけた自由な暮らしの支援を実現している。また、地域の方々にも見守りや声かけをしてもらえる関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、職員会議の際に高齢者虐待委員会を開催し、日々のケアの中に言葉による虐待等ないか確認を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の外部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。必要のある方がいらっしゃった場合は活用できるように支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間をかけてゆっくりと説明を行なっている。ご家族に対して、重要事項説明書及び契約書の一項目ずつ質問等ないか確認を取っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者、ご家族から意見、要望をもらえる体制として、出入口への意見箱の設置、相談苦情受付者の電話番号の掲示、運営推進会議の開催を行なっている。	利用者には日頃の暮らしの中で頻繁に声かけしてコミュニケーションを図り、家族からは母の日や敬老会時の家族会や来訪時に、何でも話しやすい環境づくりに努めて、思いや意見を把握するように努めている。申し送りや職員会議で全職員が共有を図り、必要時に対応を速やかに話し合い、サービスに反映させるとともに、本人や家族にも適切に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者との個別の面談を行っており、職員の意見、要望を反映できる体制がある。労務管理について説明を行っている。	管理者は日頃より職員が働きやすく話しやすい環境づくりを工夫しながら、職員の意見や提案は、日々の申し送りや職員会議で積極的に聞き取り、特に利用者のケアに関しては十分に話し合っている。職員が意見を出しやすいように日頃から声かけを行い、個別面談でも丁寧に話を交わしている。意見や提案は運営や利用者へのサービス向上に具体的に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりのニーズに応えられるようなシフトの調整、資格による手当、他の介護施設での研修等、向上心や、やりがいを持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々が自己研鑽できるように、研修の情報提供をし、希望者には参加してもらい、内部研修で報告し実践できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>系列のグループホームの管理者と、月1回交流する機会があり、情報交換、勉強会を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始以前に必ず本人と面談、情報収集しながら、不安、要望について聞き出し、説明や話し合いをしながら、安心感を持てるような関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始時そしてその後も家族と連絡を取り合い、報告を行ない、家族の不安や要望を聞き改善に努め、関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要な支援から優先順位をつけて、随時、順を追って対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>毎日のお茶や食事、レクリエーションを通して、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連携を図りながら、共に本人を支えていく。本人と家族の思いを理解し、絆を持てるような関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人の面会、又外出や外泊を通して馴染みの方々や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	利用開始時の聞き取りや日頃の会話から、本人を取り巻く人間関係などを把握して支援に活用している。利用者の家族や友人・知人の来訪の機会は多く、その折にはゆっくりとくつろげるように可能な支援を行っている。また、家族と話し合いながら、カラオケや買い物・墓参り・一時的な帰宅や外泊などを適切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事、お茶、レクリエーションを通して関わりを持ち、トラブル無く、皆が連帯感を持てるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係が断ち切れないように、手紙のやり取りを行ったり、他施設、病院へ面会に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの独自の意向の把握に努め、その人らしさを大切にしている。要望の聞き取りが困難な場合はサービス担当者会議にてご家族に意見を求めている。	日常の会話や行動から利用者の思いや希望をくみ取るように努め、職員で話し合い、その人らしさを大切にされた対応を心がけている。また、家族や関係者ともコミュニケーションを図り希望や意向の把握に努め、利用者本位の最適の支援を目指す努力を重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、その他過去に担当してケアマネージャー等からの情報収集により、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通して、状態観察を行い、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや職員間でのミーティングを通して、本人、家族、関係者の意見を聞き、介護計画を作成している。必要に応じて随時、カンファレンスを行っている。	介護計画は、利用者や家族の思いや意見を聞き、また医師を始めとする関係者の意見も含めてわかりやすい内容のものを作成している。経過は申し送りノートに記録され、特に大切な事柄は管理者が個々の職員宛に作成した文書を個別ポストに配布して情報を共有し日常のケアを行っている。カンファレンスやモニタリングも定期的実施され、これらを基にして計画の見直しや修正が適切に行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記録され、職員間で情報共有できており、意見の交換をしながら実践、見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一度ミーティングを行い、入居者個別の話し合いをしており、ニーズへの対応を検討、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ホーム内外での行事でボランティアによるイベントを楽しんでいる。入居者も一緒に参加できるように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談の上、かかりつけ医を決め、月に一度の受診、又は往診を行ってもらい、特変、不調時にはその都度受診を行い家族への連絡、報告を行なっている。	本人や家族が希望するかかりつけ医の通院や往診を適切に支援している。協力医療機関とも連携が図られ、24時間医師からの指示や診療が受けられる体制が築かれている。受診状況や必要な対応など、職員を始めとする関係者で共有が図られ、家族とも適切に連絡が取られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我やバイタルサインの異常時には、協力病院の看護師に支持を仰ぎ、状況に合わせて病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関へホームでの身体状況の報告を行い、定期的に入院先へ面会に行き、本人との面会や病院での近況報告をもらい早期退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医と相談を行い終末期のあり方について考えている。早い段階では本人や家族も判断できないこともある。終末期のあり方については今後も本人や家族と密に相談をし、支援していく必要があり、意見交換を行っている。	医療連携体制も築かれ、利用開始時に「重度化や終末期における介護指針」で方針を説明して同意を得ている。その後も家族会や半年に1回の担当者会議で、ホームでできることを説明して家族とも繰り返し話し合い、主治医や関係者とも連携を密にして、より良いケアができる仕組みづくりを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きないように日々細心の注意を払い介護に従事している。又、緊急時対応等、研修を行い実践できるよう個々でも訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、昼夜想定で防災訓練を行なっている。職員、地域住民、家族への緊急時の応援の協力を得ている。</p>	<p>年2回消防署の協力を得て、夜間も含む火災や自然災害を想定した避難訓練が実施されている。訓練にはご家族の参加もあり、関連マニュアルも整備されており職員の意識向上につながっている。また、スプリンクラーや自動通報装置等の防災設備の充実とともに、緊急時には地域住民からの協力を得られる体制も築かれ、食料や水の備蓄も問題ない状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、プライドを傷つけない様に言葉を選び声掛け、対応している。接遇のセミナーに積極的に職員が参加し、言葉かけに配慮している。	接遇研修等の充実を図るとともに、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を重視して日々のケアに取り組んでいる。居室の保護や排泄時・入浴時のケアの際にも、本人の気持ちや人格に配慮した対応を心がけている。また、各種の個人記録も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握。表出しやすい声かけ、場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調など考慮し、入浴、食事などその方に合わせて提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出を兼ねて、美容室へ出かけたり、訪問美容室を利用したりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に喜んで頂けるような献立も工夫している。下ごしらえを一緒に行ったり、季節ごとの行事食も提供している。	水分や食事チェック表の活用とともに、日頃の会話で利用者の好みを把握して献立にも反映している。下ごしらえや食卓の準備・後片付けなど、利用者と一緒にできることを支援している。また、利用者といっしょのおやつ作りや季節の行事食、誕生会等の特別食、弁当持参の外出など、多くの工夫で利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の必要性はスタッフ全体が意識しており、毎日の水分・食事チェック表にて把握をしている。個々の嚥下状態に応じて、とろみ、ゼリーでの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け・見守り・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握。 本人の状態に合わせてトイレ誘導・介助を行っている。自立している方には、確認、声かけを行っている。	利用者の様子観察や排泄チェック表を活用で、利用者個々のリズムを把握するように努めている。利用者の自尊心に配慮しながら、合わせて個人の習慣や身体機能を踏まえて、職員で可能な援助方法を話し合い、羞恥心や不安を軽減するような誘導や声かけも工夫しながら排泄の自立のための支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に野菜や、食物繊維の多い物を多く取り入れ、乳製品の摂取をすすめている。散歩、廊下の歩行練習等も行っている。座位が安定している方は自然排便が出来るように、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回を目途に、入浴の際は事前にお知らせ、お誘いしている。 その日の利用者の状況・体調等考慮し支援している。	入浴は基本的には週3回であるが、利用者の希望に応じて、また医師の指示も仰ぎながら、健康状態や安全面には十分配慮して毎日でも入浴できるように支援している。現在は入浴を拒否される方もなく、職員は利用者の皮膚等の観察とともに、できるだけゆっくり話を交わすよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に添って、日中はレクリエーション活動に参加してもらっているが、様子や状態に応じて休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量は服薬表を作成。服薬は担当を決め確認後、一人ひとりに手渡し飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に調理（もやしの根切り、皮むき等）や掃除、洗濯物畳みなどできる範囲で役割を持って頂いている。又、買い物やドライブが好きな方など個々に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に沿って散歩、買い物、ドライブなど外出支援を行っている。地域の保育園の子供に声かけされたりする。	利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って散歩や買い物に出かけている。その折に近隣の方々や保育園児と挨拶や会話を交わすこともある。また、必要に応じて家族の協力も得ながら、デパートでの買い物やカラオケ・外食のほか、地域の行事やイベント・季節の花見・墓参りなど、可能な限り楽しく外出できるように企画・支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の出来る方は財布をもたれており、買い物時は好きなものを購入支払いをされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族より電話がある時、取り次いだり、年賀状を書かれる時など支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレの清掃に努め、快適に使用できるように、清潔を保っている。座席の配置、彩光への配慮を行っている。設営に季節感のあるものを取り入れている。</p>	<p>共用の空間は室温や湿度・採光に配慮され、畳の談話スペースも設置されており、利用者は思い思いにゆったりとくつろげる環境づくりがなされている。トイレや浴室・居室などの清潔維持にも十分に配慮が感じられ、廊下には安全確保のための手すりも設置されている。リビングや廊下には季節の花飾りや手作りの作品・各種の行事や鹿児島の昔の風景写真などが飾られ、季節を感じながら過ごすことができるように工夫がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや畳のスペースがあり、気の合った方々で思い思いに過ごしている。テレビの配置に考慮し、観賞しやすくしてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具を持って来てあり、それぞれの思い出の品を居室に飾ってある。</p>	<p>居室の環境づくりにも配慮が感じられる。ベッドやエアコンのほか、安全のための手すりの設置も見られ、利用者がそれまでの暮らしで使い慣れた身の回りの物や思い出の品を自由に持ち込んで頂き、自分の部屋として過ごせるように、家族とも話し合いながら適切に支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には手すりが設置され、部屋の入り口には表札。トイレ、浴室は絵と文字でわかり易く表示されている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者、家族の想いを尊重し、パーソン・センタードケアを方針とした理念を掲げ、毎朝唱和することと共に、実践できるように意識付けをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、散歩や買い物等の外出時に交流が持てるように心がけている。町内会で役員を引き受けている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域での行事に参加したとき等、地域の方々に認知症の方への配慮をしていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヵ月に一回運営推進会議を開催し、家族や地域包括支援センター職員、近隣住民に参加して頂き、ホームでの活動報告、研修報告を中心に様々な話し合いを行い、意見を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	鹿児島市長寿支援課、介護保険課、指導監査課の方に指導を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月、職員会議の際に身体拘束廃止委員会を開催し、日々のケア振り返りを行なっている。内部研修を通して職員一人ひとりが身体拘束について理解をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、職員会議の際に高齢者虐待委員会を開催し、日々のケアの中に言葉による虐待等ないか確認を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の外部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。必要のある方がいらっしゃった場合は活用できるように支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は時間をかけてゆっくりと説明を行なっている。ご家族に対して、重要事項説明書及び契約書の一項目ずつ質問等ないか確認を取っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者、ご家族から意見、要望をもらえる体制として、出入口への意見箱の設置、相談苦情受付者の電話番号の掲示、運営推進会議の開催を行なっている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者との個別の面談を行っており、職員の意見、要望を反映できる体制がある。労務管理について説明を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員一人ひとりのニーズに応えられるようなシフトの調整、資格による手当、他の介護施設での研修等、向上心や、やりがいを持つように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々が自己研鑽できるように、研修の情報提供をし、希望者には参加してもらい、内部研修で報告し実践できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>系列のグループホームの管理者と、月1回交流する機会があり、情報交換、勉強会を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に必ず本人と面談、情報収集しながら、不安、要望について聞き出し、説明や話し合いをしながら、安心感を持てるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時そしてその後も家族と連絡を取り合い、報告を行ない、家族の不安や要望を聞き改善に努め、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援から優先順位をつけて、随時、順を追って対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のお茶や食事、レクリエーションを通して、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連携を図りながら、共に本人を支えていく。本人と家族の思いを理解し、絆を持てるような関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人の面会、又外出や外泊を通して馴染みの方々や場所との関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事、お茶、レクリエーションを通して関わりを持ち、トラブル無く、皆が連帯感を持てるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係が断ち切れないように、手紙のやり取りを行ったり、他施設、病院へ面会に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの独自の意向の把握に努め、その人らしさを大切にしている。要望の聞き取りが困難な場合はサービス担当者会議にてご家族に意見を求めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、その他過去に担当してケアマネージャー等からの情報収集により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通して、状態観察を行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや職員間でのミーティングを通して、本人、家族、関係者の意見を聞き、介護計画を作成している。必要に応じて随時、カンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記録され、職員間で情報共有できており、意見の交換をしながら実践、見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一度ミーティングを行い、入居者個別の話し合いをしており、ニーズへの対応を検討、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ホーム内外での行事でボランティアによるイベントを楽しんでいる。入居者も一緒に参加できるように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談の上、かかりつけ医を決め、月に一度の受診、又は往診を行ってもらい、特変、不調時にはその都度受診を行い家族への連絡、報告を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我やバイタルサインの異常時には、協力病院の看護師に支持を仰ぎ、状況に合わせて病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関へホームでの身体状況の報告を行い、定期的に入院先へ面会に行き、本人との面会や病院での近況報告をもらい早期退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医と相談を行い終末期のあり方について考えている。早い段階では本人や家族も判断できないこともある。終末期のあり方については今後も本人や家族と密に相談をし、支援していく必要があり、意見交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きないように日々細心の注意を払い介護に従事している。又、緊急時対応等、研修を行い実践できるよう個々でも訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、昼夜想定で防災訓練を行なっている。職員、地域住民、家族への緊急時の応援の協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の暴力にならないように、個々のそれぞれの立場に立ち言葉かけや対応を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握、自分の思いを表出しやすい雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間はその日の体調や気分を考慮、入居者のペースを大事に優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的な訪問美容室又は、美容室まで外出し、個人の好みを直接伝え、思うとおりのヘアスタイルを楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、配膳、下膳などできるところは参加を頂き、食事が楽しめるように、好物を献立に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の必要性はスタッフ全体が意識しており、毎日の水分・食事チェック表にて把握をしている。個々の嚥下状態に応じて、とろみでの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け・見守り・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握。 本人の状態に合わせてトイレ誘導・介助を行っている。自立している方には、確認、声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に野菜や、食物繊維の多い物を多く取り入れ、乳製品の摂取をすすめている。散歩、廊下の歩行練習等も行っている。座位が安定している方は自然排便が出来るように、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回を目途に、入浴の際は事前にお知らせ、お誘いしている。その日の利用者の状況・体調等考慮し支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に添って、日中はレクリエーション活動に参加してもらっているが、様子や状態に応じて休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量は服薬表を作成。服薬は担当を決め確認後、一人ひとりに手渡し飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に調理（もやしの根切り、皮むき等）や掃除、洗濯物畳みなどできる範囲で役割を持って頂いている。又、買い物やドライブが好きな方など個々に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に沿って散歩、買い物、ドライブなど外出支援を行っている。地域の保育園の子供に声かけされたりする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の出来る方は財布をもたれており、買い物時は好きなものを購入支払いをされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族より電話がある時、取り次いだり、年賀状を書かれる時など支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレの清掃に努め、快適に使用できるように、清潔を保っている。座席の配置、彩光への配慮を行っている。設営に季節感のあるものを取り入れている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや畳のスペースがあり、気の合った方々で思い思いに過ごしている。テレビの配置に考慮し、観賞しやすくしてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるような設営、生花の購入、心地よい音楽を流すなどして、居心地の良い空間作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ソファや和室を個々で利用されたり、また居室内で気の合う入居者同士思い思いに過ごしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない